

備後有地氏の盛衰

田口 義之

一、国人有地氏

二、有地氏の出自

- 1、通説の検討
- 2、『萩藩閥閥録』所収「有地右衛門」差出家譜の謎
- 3、宮長門民部左衛門尉信定と有地氏の関係
- 4、天正十一年の銘文

三、戦国初頭の宮氏の動向と、有地氏の分立

- 1、宮氏の惣領「下野守家」と「上野介家」
- 2、天文十年の下野守家の断絶と「久代宮氏」と「有地宮氏」の成立
- 3、室町幕府の崩壊と宮氏一族の土着

四、有地氏三代 — 清元 — 隆信 — 元盛 —

石見守 刑部少輔 民部少輔

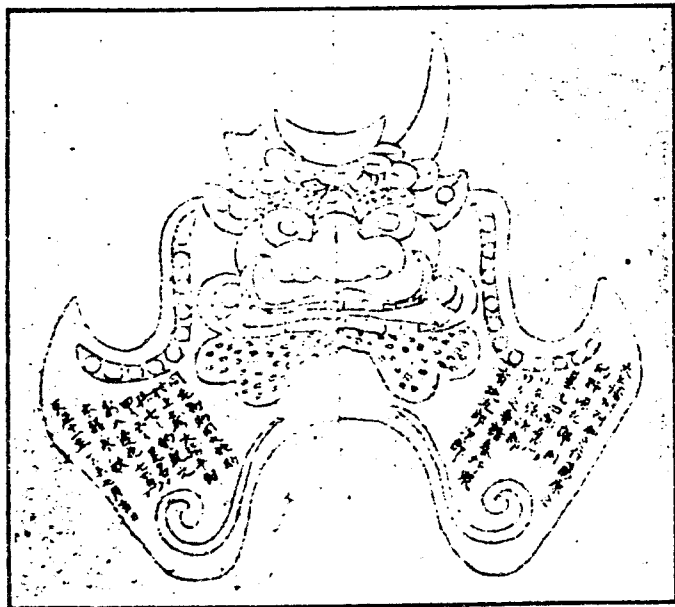
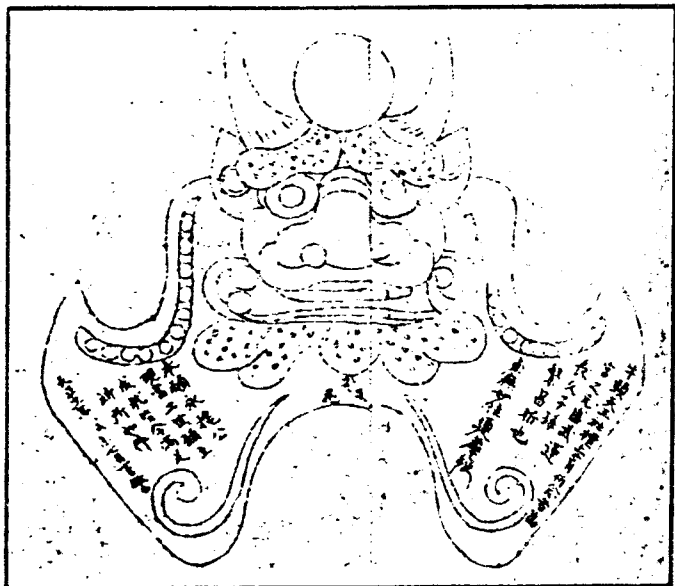
五、戦国大名毛利氏と有地氏

六、有地氏と山城

- 1、有地氏居城の変遷
- 2、総石垣の山城、『相方城』の築城論争

七、有地氏の備後退去

九左衛門 又左衛門 ツノ子僧天 王寺三住ス 八助 五郎左衛門 有地式部 龍島治部
有地右衛門太夫 同左衛門 上三列スル人ト同名 多シ同人ニアラスヤ 同内藏太夫 同左馬助 同右近太夫 同次郎右衛門
陰德記後太平記ニヨルニ民部少輔名ハ元盛或元森ト稱スルハイフカシ毛家ニ從ヒ備中松山城ヲ攻
拔シヨリ處々高名數ヲシラス中ニモ備前蜂濱ノ役ニ浮田羽柴カ大軍味方ノ不意ヲ伺フテ未明ニヨ
セ來リシトキ檣崎彈正ト同シク槍ヲツ取テ立向ヒ敵ノ魁將蜂須賀小寺トワタリ合シハラク支ヘ戰
フ毛利ノ大軍ソノ間ニヤウヤク陣列ヲト、ノヘタリソノ日ノ軍ニ手ノ者有地五郎左衛門盛貞浮田
牛之介家則ヲ討トル大將與太郎モ古志カ手ヘ打トリケレハ秀吉モ負軍トヤ思ケン自身槍ヲ引サケ
督戰セラル元盛大將ト見テケレハノカスマシト突テカ、ル太閤運ヤツヨカリケン突ハツシテ過行
處ヲ馬ノ尻石突ニテツキ玉ヘハ馬辟易シテ飛ユキシユヘ終ニ返シ合スル事ヲ得ス毛家本願寺ノ難
ヲタスケラレシトキハ義昭將軍ノ使トシテ浦兵部ト同シク織田ノ軍艦ヲ打ヤフリテ兵糧ヲオクル
本願寺ハ光佐ト云ノトキナリ初光佐三好長慶ニ一味シテ織田ニ抗シマタ越前ハ織田カ朝倉ヲホロ
ホシテ取リシ國ナルヲ信長諸戰多事ノヒマナウカ、ヒ光佐マタ誘ヒ降スソノ外諸國ヲ誘ヒシタカ
ハサルヲハ兵ヲ以テトル等ノ事多カリシ故信長圍ミ攻ラレシヲ毛家義昭將軍ヲヒキウケシ時ナレ
ハ援兵ヲ出セシナリト云美作守毛家雲州ノ陣ニハシメテミユ兒島ノ戰ニヨキ敵ヲ打マター一人ト組
合テ下ニナリシヲ姪ノ次郎右衛門カケヨツテ首ヲトル孫左衛門ト云モコノ日同ク出テハタラク吉
川經家因州鳥取籠城ニヲノ人ナコメシトキ有地ハ同名左近カ叔父右京亮ト云ヲ入タリ此家ノ事
長州後藤勘介筆記セシアリ二書ト小異アレトモ實錄トミエタリ今略シ舉テ考索ニソナフ
有地石見守清元ハ 村上天皇ノ苗裔ニテ龜路山城主宮某カ末子也宮兄弟イクサシテ九州ヘ沒落
セシ時清元ハト、マリテ有地一村ヲ領シ國行ト云處ニ居ル天文ノ比也其子隆信福田某ヲ攻オトシ
其地ヲトリテ弟玄蕃ヲ同村スクモ塚ト云處ニ置テ守ラシメツ、イテ柞摩栗栖中須戸手等ヲキリト
リ大谷ト云處ニ城ヲキツク長子美作守元森ニイタリモトノ宮カ領地ヲコト々キリトリテ相方
ノ城ヲキツクウツル天正ノ頃也此時毛利十三ヶ國ノ太守タリシカハ有地モ其幕下ニテ隆信ハ隆元
ノ隆元森ハ輝元ノ元ヲタマハリテ名トス新庄ノ古志心カワリセシヨシ説セラレ廣島ニテタマシ打
ニ逢シトキ其餘ノ城モヲタル輩モウタカハレ山城ヲ廢シテ平地ニ居ルヘキヨシ回文アリケレハ有
地モ宮内ノ土井トイフ處ニウツリ程ナク場所カヘテ命セラレテ出雲ニウツル元森ハ武功ノ人ニテ
毛利殿山内ヲ亡ホサレシ時モ軍奉行トナル備中猿掛ノ軍ニ浮田與太郎ト云大力ノ剛者有地カ武勇
ハキ、ヲヨヒヌイサ弓鐵炮ヲヤメテ一騎打ノ勝負セントヨハ、ル有地ワタリ合テ鎗ニテタ、カフ
コト一時ハカリ勝敗ナケレハ鎗ヲステタムストクム與太郎力マサリテツキニ有地ヲクミフセシカ
トモ有地早ワサニテ下ヨリ首ヲカキオトスサレトモツカレテオキタツコトアタハス元森カ從弟大
炊トイフ者ハシリヨリ其首ヲトリテ毛利殿ニサ、ク軍法ニヨリテ賞ハ大炊ニ賜ヒシカトモ元森カ
手カラ古今ニ類ナシトホメトヨム備前蜂濱ノイクサニ岡江助同平内ト云無雙ノ勇者一緒ニカケ出
キタリシニ元森一人タチムカヒ槍ニテ二時ハカリイトミアヒ勝敗ワカレ子ハ相引ニシタリ此外處
々ノ高名數ヲシラス元森諸藝ニ達ス槍ハ二間四方ニ柱ヲタテスミチカイニ細引ヲハヘ其上ニテツ
カヒ人ト試アラソフテ負ス馬ハ棋盤梯子深田ノリナトイフコトマテモ熟ス城ニ近キカンセキ山ト
イフ所ヨリ福田ノサカヒ迄半腹ヲ往來シテ鳥ノ如シマタ蹴鞠ヲヨクス相方山ヨリ平地迄蹴ナカラ
ニ下リマダノホル其間ニ四五度高足ヲアケテ鞠ヲ見失フ計タカクス圍棋ハオヨソ日本ニ敵手ナシ
ト云第九左衛門ハ勢州津ノイクサニテ打死シ末弟八助ハ高麗ノイクサニ釜山海ニテ打死スミナ兄
ニツ、キタル勇士也八助次ノ兄ニ又左衛門トイフアリオハリヲシラス其子僧トナリテ天王寺ニ住
セシヲ見レハ零落セシニヤ元森カ家ノ子ニ有地式部トイフ弓ノ上手アリ毛利家ニキ、ヲヨハレ廣
島ニメサレテ試ラレシニ一寸二分ノ星ニヨツエ三十七タケチ、キテモロ矢ナク射ソロエソノウヘ



(有地右衛門)

1 香春嶽要害取詰之、付城を相拵在陣之由、黒田勘解由言上候、寒天之時分彼是辛勞感恩召候、彌入勢、城中橋籠候輩一人義不拔退様、迄下、堅相觸、悉ク可打果事專一候、度、被仰聞候キ、少敵侮之卒爾之動無用候、猶委曲黒田可申也

(天正十四) 十二月十二日 大關秀吉公 御朱印
有地とのへ

大織冠鎌足二十三代 宮左馬頭正信(太郎左衛門)

此代迄公家なる候處、應長元年賜備後國守護職、下向彼國號宮殿、弓馬達人也
元弘貳年死、六拾六歳

宮下野守兼信 從四位下 後入道

從此代武家改之也、龜地山之城主也、尊氏公之時賜案堵之御判兼信・氏信、元弘より永和ニ至り父子數年間東帝都五畿西國所々合戰軍功抽群

宮下野守氏信 從四位下 始下野次郎

氏信者尊氏公御味方、忠節依御感氏之字頂戴、猶子之御契約、氏信一代賜源姓、被補御一門之列賜屋形號、宮屋形是也

(八十一) 康應元年死、八十歳

宮下野守晴信 始太郎

從康安應永迄於所々有軍功
應永拾八年死、七十三歳

宮下野守貞清 始太郎左衛門尉

赤松退治之時、武信・宗信・政信・長信一所戰功、貞清八十歳於所々有戰功
文安五年死、八十七歳

宮民部大輔宗信

武信繼本家、宗信領有地、政信領日野、宮三家是也、從應長至享徳於所々有軍功

宮民部大輔長信 始小太郎

從永享寛正迄於所々有軍功
文正元年死、五十歳

宮民部大輔光信

宮下野守直信 重信トモ 始美作守 後入道

大内家幕下也、天文三年七月備後國主宮下野入道か居城に元就公貳千之御人數を以御取懸被成候處、入道急病にて死、依之城中弱而嫡子若狹守降参仕候

宮美作守元盛 始若狹守 民部大輔

有地美作守高信 始備後守

改本名、以在名稱號有地ニ罷成候、始而賜元就公

有地美作守正信 始豐助 内記 民部大輔

有地美作守元信 始十右衛門 後利庵

寛文三年十二月廿九日死、八十三歳

右私先祖有地美作守高信事、備後有地之城主也、本名と宮と申候へ共、以在名稱號有地ニ罷成候、屬元就公之御幕下、從夫先祖段々抽勳功、元就公輝元公より御判物數通頂戴被仰付候處、美作守正信代、京都本國寺ニ御判物を預置候處彼寺焼失仕、右之御判物并梓家之系圖等迄焼亡之由申傳候、從秀吉公之御朱印壹通殘居候故、寫仕差上申候

資料三 二相方本泉寺位牌

表

高顔院殿定親日妙大居士
理法院殿青心日覺大居士
高巖院殿妙允日光大姉
寶林院殿蓮心日珠大居士
法覺院殿妙心日孝大姉
蓮成院殿常安日意大居士
真如院殿日榮大居士
照壽院殿前元信利菴日住居士

正長院殿萃翁妙蓮大姉
雪松院梅月隆恵日仁居士
春松院雪梅妙盛日長大姉

裏

高 文明十八年年十月十三日宮禁門民部左衛門尉藤原定信山田軍端打死
理 大永三年年五月九日有地国竹城主有地石見守清元菩提所本安寺
高 年号不知十五日同人内室當寺第十五代日清代
寶 同 十三日有地次良左衛門尉隆信有地内記尉
法 同 十七日同人内室 同 晋平尉 建之
旭唱山本泉寺大願主有地美作守元盛建立
蓮 同 九日有地右近太夫元信
真 同 三月九日相方城主有地美作守元盛毛利家奉供長脇拙内ニ入後防脇山口本
国寺ニ而出家ス

照 寛文三卯年十二月九日有地美作守元信廟所位牌萩蓮萃寺ニ有
正 延宝六年年十二月十八日有地又右衛門尉元直開眼師日誓上人
春 同 八申年二月十三日同人内室蔵田七良右衛門尉元吉女